

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

62

「地震、雷、火事、親父」。いずれも怖いものの代表。しかも、突然やってくるという特徴がある。でも、最近「親父」は怖くないのかも。いずれにしても、地震、雷、火事は想定外にやってくるし、被害は甚大だ。

最近、自然災害が多く、まず思い付くのは地震、台風だが、火山も忘れてはならない。少し前に「火山を知るその時に備える」というテーマのシンポジウムを聞きに行った。

聞きに行ったのは、高校時代に鹿児島にいて桜島の降灰をしばしば経験したほか、最初の支店が長崎支店であ

自然災害

万が一 備え準備必要

り、赴任する前の年に雲仙普賢岳で大規模な火砕流が発生し、大勢の方がお亡くなりになったということがあったからだ。

群馬県には火山が五つ(浅間山、草津白根

できた。火山は、噴石・降灰、溶岩流、火砕流、火山ガス、土石流などの被害を引き起こすが、それは何も火山に近い所だけではないということだった。大規模な噴火で大量の降灰があると、水にぬれた灰が電気系統に付着して大規模停電が発生するらしい。

知らないことも多かつた。例を挙げれば①

「備えあれば憂いなし」。群馬県はこれまで災害が少なかったことが県内経済の一つのメリットだと思いがいざというときのために準備は必要ではないか。

皆さんの生活で参考になるかなあと思つたのが、東京都が出している「東京防災」という本。ホームページで簡単に入手できるし、イラストで分かりやすく対応を書いてある。あと、家庭におい

山、日光白根山、赤城山、榛名山)あり、昨年には草津白根山が、今年には浅間山が噴火したということもあつたか、シンポジウムの会場はほぼ満員。関係者の皆さまの関心の高さがうかがわれた。

当日の講演では、いろいろなお話をお伺い



岡山和裕(おかやま・かずひろ) 1969年

7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。

東日本大震災によって火山の活動が活発になつていという話があるが、火山活動は数千年から1万年単位で起

た火山噴火は、それほど大きくないらしい。転蓄、すなわち、備蓄しながら使うという方法が有効なよう

だ。お試しあれ。